文化かごしま

第 125号
令和 5 年 3月 31日

鹿児島県文化協会
発行人　原口　　泉
鹿児島市山下町 5-3
宝山ホール(県文化センター)2F
TEL·FAX 099-223-3123

HP
Email　kabunkyou@yahoo.co.jp
ka-bunkyou@po.minc.ne.jp

日本一と言われる エドヒガン桜

曽木発電所遺構(国指定有形文化財)

郡山八幡神社(国指定重要文化財)

曽木の滝

目　次

実行委員長あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
～県民文化フェスタ in 伊佐 2023 開催にあたって～
伊佐市文化協会会長　平川　聖一

歓迎のことば ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
伊佐市長　橋本　欣也

伊佐市文化協会の活動紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
津軽三味線石井流秀岱会・羽月レクダンス

文化賞受賞を寿ぐ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
令和四年度県民表彰　　原口　泉さん
第七三回南日本文化賞　　髙風　勝治さん

鼎談【世界に誇る鹿児島の食文化　其の参】・・・・・・・・・・・ 6
「鹿児島の発酵文化を世界の人々に！」

鹿児島県北部の文化活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
薩摩川内市・さつま町・出水市・長島町

プロジェクトメンバーからの提言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
池水　聖子さん

特集「2023 かごしま総文」第 47 回全国高等学校総合文化祭 ・・・ 22

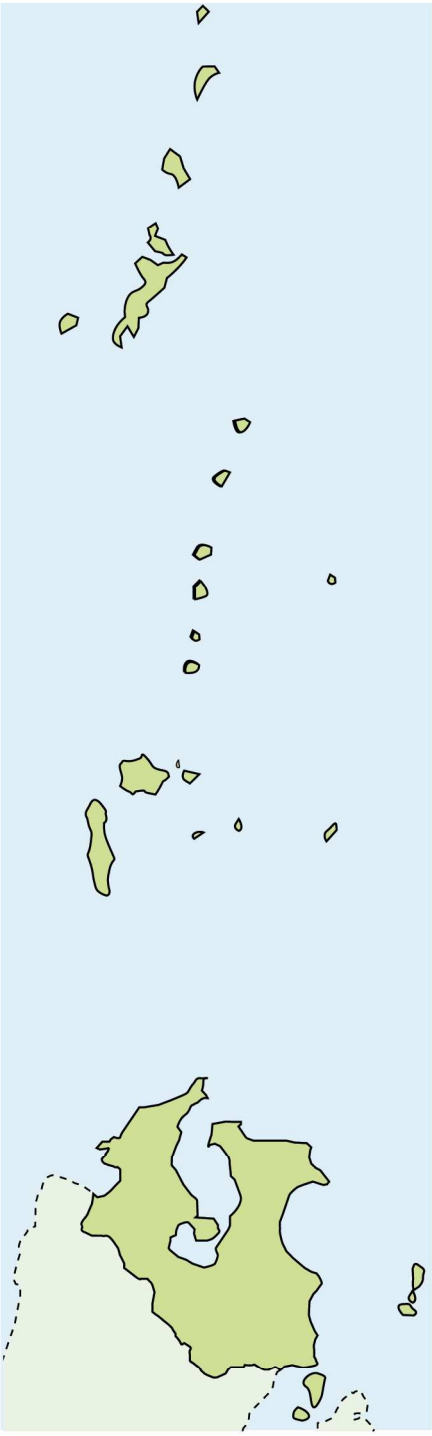
賛助会員と寄付金の募集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

郷土の伝統行事や伝統文化の保存継承を ・・・・・・・・・・・・・・ 28

「県民文化フェスタ in あまみ 2022」報告 ・・・・・・・・・・・・・ 29

賛助会員・加盟団体の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34



自然との調和 地域のみなさんと共に

住友金属鉱山
SUMITOMO METAL MINING
菱刈鉱山

〒895-2701 鹿児島県伊佐市菱刈前目 3844
TEL：0995-26-3111 / FAX：0995-26-4130

「県民文化フェスタin伊佐2023」開催にあたって

伊佐市文化協会会長　平川　聖一

二〇二〇年七月に開催予定だった「県民文化フェスタin伊佐２０２０」は、コロナ感染症拡大により、実行委員会を三回行っただけで、高風事業部長をはじめとした県役員の皆様の意見等を伺い中止の決定をいたしました。その時は、まさか今日まで感染症が収束しないなどとは想像もつきませんでした。

そんな中、昨年の県民文化フェスタが奄美地区で大成功のうちに終わられたことは、関係者の皆様の大変なご苦労があったと思い敬服する次第です。

私は、伊佐市の文化協会長を引き受けて一二年になりますが、会長になって二年目に県民文化フェスタを伊佐市で開催いたしました。今になって考えますと、このような大事業を後先考えずによく引き受けたものだと思っています。

今回は感染症で三年延期されましたが、日々プレッシャーが増していく今日この頃です。

まだまだ感染症が蔓延しているさなか、本当に観客が来てくださるのか大変心配でもあります。しかし、決まった以上は前向きに考え、役員や会員の皆様、スタッフの協力を得ながら頑張っていくつもりです。

今回は、県文化協会の皆様・事業部の皆様・姶良市・霧島市・湧水町の皆様と実行委員会を立ち上げ、鹿児島県最北端の田舎での開催ですが、他の人口の多い町には無い素朴な内容にして、地元の皆様と一緒に楽しみたいと思います。

事業部の先生方や関係者の皆様には遠方となり、ご苦労をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

Supplement Company
Lipusa

「県民文化フェスタin伊佐2023」歓迎のことば

伊佐市長　橋本　欣也

県内各地から多くの文化関係の皆様をお迎えし、「県民文化フェスタ」が、ここ伊佐市において盛大に開催されますことは、誠に喜ばしいことであります。地元の実行委員会共々、市民を代表して歓迎を申し上げます。

伊佐市は、熊本県、宮崎県の県境に接し、鹿児島県最北の市です。周囲を山々に囲まれた緑豊かな盆地で、平地には川内川とその支流が流れ、この水系を中心に水田がひらけ、県内屈指の米どころとして発展してきました。また、川内川下流域には、東洋のナイアガラとも呼ばれる「曽木の滝」や、近代化産業遺産の「曽木発電所遺構」があります。

伊佐市文化会館は、昭和五七年四月一日開館以来、数多くの文化団体の舞台発表や、芸術作品が展示され、文化の香りのするまちとして、市内外の方に愛され続けてきました。

舞台発表される皆さんには、これまでの練習の成果を十分に発揮していただき、文化芸術の素晴らしさを一層感じながら、子どもからお年寄りまで世代間交流の輪を広げ、県下最大の祭典として心に残る大会にしていただきたいと思います。

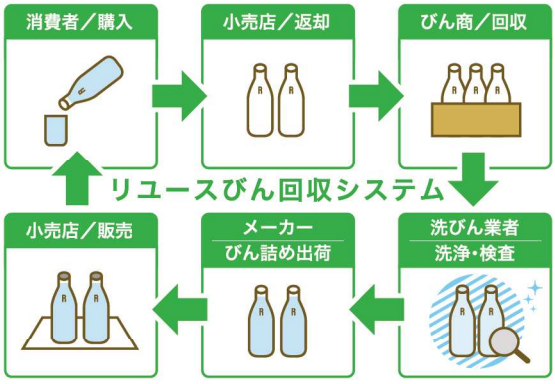
また、本年一〇月には、「燃ゆる感動かごしま国体」が鹿児島県で開催され、その中でもカヌースプリント競技が伊佐市で開催されることになっており、あわせて「第47回全国高等学校総合文化祭」が鹿児島県で開催されます。全国に鹿児島県の観光・文化・スポーツをアピールする素晴らしい年になると思います。

結びに、本大会の開催にあたり、ご指導いただきます鹿児島県文化協会をはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本大会の成功と舞台発表の皆様のご健闘を心から祈念いたします。

大口酒造の取り組み

びんのリユース

大口酒造では1,800mlびん、900mlびんをリユースしており、900mlびんは通常びんよりも強度が高く再利用可能なRびんを使用しています。



大口酒造株式会社
鹿児島県伊佐市大口原田643番地
0120-86-9613 http://www.isanishiki.com
お酒は20歳になってから。

伊佐市文化協会の活動紹介

津軽三味線　石井流秀岱会

代表　松下　悦子

津軽三味線は、青森県津軽地方を発祥とし、今や全国に流派を変えて伝わっています。

石井流は、宮崎県都城に本部を置き、鹿児島支部は総師範の石井秀岱氏の指導により、桜島教室・吉野教室・加治木教室・大口教室が活動しています。

大口教室は平成二八年六月に発足し、現在七年目で九名のメンバーです。練習は伊佐市の公民館で月三回、木曜の夜に三〇分ずつの個人レッスンを受けていますが、文化祭やイベントの出演前は、全員での合同練習を行っています。

今年は二月に創立三〇周年記念公演が都城で行われます。総勢七〇名ほどで弾き鳴らす津軽三味線の大合奏はすごい迫力です。

八月に伊佐市で行われます県民文化フェスタも楽しみです。津軽三味線に興味がある方はどうぞおいでください。ご本人はもちろん、子どもさんやお孫さん等、年齢を問わずに学ぶことができます。五歳の子どもも頑張っています。

私たちは、これからも津軽三味線を通じて、和楽器の文化を継承していきたいと思います。

羽月レクダンス

代表　福本　千枝子

羽月レクダンスは、昭和六〇年に結成し三七年を経過しました。レクダンスを通した健康づくりと仲間づくりを目的に、伊佐市文化ホールで週一回夜に練習しています。

また、羽月レクダンスは伊佐レクダンス協会の中心となり、毎年五月には「伊佐レクダンスフェスティバル」を開催し、三六回目を迎えて、地元は勿論の事県内の多くの愛好者と共にさわやかな汗を流しております。

昨年一一月は、三日に「伊佐市文化祭」、一一日に「伊佐市ふるさと祭り」に参加しました。そして一九日には「全国女子体育研究大会」が鹿児島市で開催され、幼児から小学生・中学生・高校生・大学生の皆さんの中に、私たちも社会体育の部で公開演技として踊らさせていただき、感謝しかありません。この時ばかりは、ダンスを続けていて本当に良かったと思いました。

今後、年を重ねてまいりますが、文化祭と言う発表の場を提供してくださる「伊佐市文化協会」に感謝しながら、高齢化とともに「みんなで楽しく」をモットーに活動し、皆様に元気をお届けできるよう頑張ってまいります。

文化賞受賞を寿ぐ

令和四年度県民表彰「教育スポーツ」部門　原口　泉さん

原口泉会長は鹿児島大学・鹿児島志學館大学で長きにわたり教鞭を取り、日本近世史・近代史を専門に研究を続けておられます。また、県文化財保護審議会の会長職にあった、平成二四年から令和四年まで八六件の県・国指定文化財に関わり先導的な役割を果たされました。

さらに、南九州・奄美・沖縄・東南アジア諸地域の歴史を俯瞰した「日本人として知っておきたい琉球・沖縄市」等、数多くの著書を発表しておられます。全国的にも、ＮＨＫ大河ドラマ「翔ぶが如く」「琉球の風」「篤姫」「西郷どん」の時代考証をはじめ、国際的な視野から日本と鹿児島を捉える講演活動を精力的に展開し、文部科学大臣表彰や日本放送協会放送文化賞を受賞されました。

加えて、皇太子殿下・妃殿下のご臨席を仰いだ「第三〇回国民文化祭・かごしま２０１５」では、実行委員長として大会の成功に貢献されました。これらの広範な活動を通じて、県の歴史・文化・教育・地域振興等に尽くした業績が高く評価されたものと思われます。会長のご健康とこれからのご活躍を、心より祈念いたします。

第七三回南日本文化賞「学術教育」部門　一般社団法人鹿児島オペラ協会　理事長　髙風　勝治さん

第七三回南日本文化賞「学術教育部門」が一般社団法人鹿児島オペラ協会に贈られました。皆様もご存じのように、同会理事長の髙風勝治さんは長きにわたって鹿児島県文化協会の事業部長を務めておいでです。今回の表彰に際し、次のようなメッセージを頂きましたので紹介いたします。

鹿児島オペラ協会は、一九七一年八月県内の声楽家が結集して設立された地方オペラである。総合芸術としての本格的な舞台を目指し、指揮・演出・美術等は国内で活躍する専門家を招き、歌手は地元でという「鹿児島方式」を実現した。これまで二〇数作品を採り上げ一二〇回以上の公演を重ねてきた。二〇二一年度は、創立五〇周年の年であったが、コロナ禍のため全ての事業を一年間先送りし、今年三月歌劇「蝶々夫人」を二日間にわたり公演する。これらの点から今回の受賞が決まったと思われる。

現在、会員の高齢化のため若手会員の育成が急務である。また、組織の再編成及び財政基盤の確立のため二〇二一年に一般社団法人化を行った。五〇周年を機にオペラファンの裾野の拡大と共に諸課題を解決すべく様々な活動に取り組んでいきたい。

【世界に誇る鹿児島の食文化　其の参】

鹿児島の発酵文化を世界の人々に！

松の内の仙巌園にて

原口　今回は、新春早々のビッグな鼎談になりました。焼酎業界からは濵田酒造の濵田雄一郎社長、黒酢の方からは坂元醸造の坂元昭宏社長においで頂きました。お忙しい中ありがとうございます。

濵田　よろしくお願いします。

坂元　よろしくお願いします。

原口　この鼎談は、協会の広報部が企画したものです。これまでモンスターラディッシュ桜島大根の話題ですとか、鰹節の町枕崎ではいろいろな業種や業界を繋いでいく取り組み、南大隅町の素材で新しい地域の魅力を育てるアイデアなどを取り上げてきました。

　鹿児島の食文化には、とにかくたいへんな魅力がある、パワーがある、可能性がある、支える歴史と伝統がある、そう考えているところです。今回は「世界に誇る鹿児島の発酵文化」がテーマということで、焼酎と黒酢、その業界を代表するお二方をお招きしました。私自身非常に楽しみにしております。では、「ぢゃんぼ餅」と「茶いっぺぇ」を準備しましたので、お話を始める前に、リラックスして頂けたらと思います。

濵田　ひさしぶりに食べますね。

坂元　なつかしいですね。

原口　さっそくですが、この会場、島津氏別邸「仙巌園」にあります「桜華亭」です。島津興業さんには、桜島が見える素敵な部屋を用意して頂きました。

　実はですね、焼酎も黒酢も島津家と非常に深い縁があるんですよ。幕末の頃、鉄砲の点火に使う雷管には高純度のアルコールが必要でした。斉彬公は高純度のアルコールを大量に作るとき、芋焼酎に目を付けたんですね。

　それから黒酢。我々の世代は「アマン」と言う方がぴったりくるんですが、これは藩の密貿易品「寒天」作りに必要でした。島津斉興公の時代、斉彬公の父で先代の藩主になりますね。お金の代わりに流通できた貴重なお米で、なぜ酢を作ったのかですね。

　それでは濵田さん。まず、御社の歴史から語って頂きましょう。

濵田　私どもの創業は明治元年ですから、今から一五五年前になります。明治の前までは、菜種油を取り扱っていまして、そこから焼酎造りに転じたわ

けです。私で五代目になります。いちき串木野市の辺りは、昔から交通の要衝で、市来の港には琉球や大阪からの船も来ていました。

原口　薩摩スチューデントも、串木野羽島崎から出発しました。

濵田　近くには串木野の金山もあって、ずいぶん賑わっていたわけです。そこで、多くの方々においしい焼酎を飲んで頂きたいと焼酎蔵の仲間入りをしました。現在は伝兵衛蔵・傳藏院蔵、それから串木野金山の跡に金山蔵と、この三つを使って本格焼酎を作っておるところです。

今日、仙巌園に来て、改めて島津氏との繋がりを感じています。と言いますのも、平成一三年の集成館事業一五〇年記念の年に、「斉彬の夢」という焼酎を作ったんです。島津興業さんとも相談を致しまして、斉彬公の名前を使わせて頂いた経緯があるんです。

原口　はいはい、そうでしたね。

濵田　私どもの焼酎を切子のボトルに入れて、額は、二〇数万円です。ほとんどボトル代です。（笑）

また、私どもは「薩摩金山私学校」を作って、原口先生には学長に就いて頂きましていろいろとご教示を頂いておるわけです。ふるさと鹿児島の歴史・文化・産業について幅広い視野から講義して頂いて、多くの方々に学んで頂いております。ご友人の小泉武夫先生を招いたりもして、原口先生にはたいへん感謝しております。

原口　いえいえ、こちらこそ有難く思っています。若い頃からのお付き合いですからね。まあ、お互いに焼酎の消費量が半端じゃなかったですから。（笑）

忘れられないのは、坂井健吉先生が九州農業試験場にいらして、昭和四一年（一九六六年）に「黄金千貫」を作られましたね。焼酎用の芋の品質が格段に向上して、おいしい焼酎が作れるようになった。坂井先生は、黒斑病だったかな、あれを克服するのに「一〇年かかっても頑張れ」と、熱いエールを送ってくださったんですね。そういうこともあって、今では芋焼酎の出荷量が清酒を上回りました。これ、今日は言っておきたかったんですが、「酎」という漢字がありますね。「酉」に「寸」と書いて。これが平成二年（二〇一〇年）に常用漢字に登録されたんです。

濵田　ああ、焼酎の「酎」がですか。

原口　これはですね、焼酎にしか使わない漢字なんです。ということは、身の回りに焼酎が普通にあるということを、あの文科省の国語審議会が認めたということです。

濵田　それは素晴らしいことですね。

原口　こういう風に、焼酎の話を濵田社長と始めますとね、坂元さん、夜が開けるんです。さっきも申し上げましたが、相当に飲んでますからね。（笑）ですから、早々に黒酢の話題に変えましょう。

酢・ビネガーと言えば、やっぱり「アマン」じゃないと僕らの世代はピンとこない。坂元醸造さんの歴史をお聞かせください。

坂元　はい、私どもはですね、大体二〇〇年以上前。遡っていきますと、一八〇〇年の初め頃というふうに言われているんです。

原口　西郷さんが生まれる、ほんの少し前ですね。

坂元　本当に記録が残っていなくて。残ったのを燃やされたかも知れませんが、辿っていけるとこまでいけばそのくらいです。昭和の戦前まで二四軒、福山町内に醸造場があったそうです。

原口　伊達さん・重久さん・坂元さんとかで、見渡す限り壺畑があってね、本当に鹿児島ならではの風景だなと思っていました。ＮＨＫの大河ドラマ「西郷どん」では、敢えて「アマン」を使わなかったんですが、黒酢誕生の歴史を説いて頂ければと思います。

坂元　今おっしゃった「アマン」は、私も小さい頃に聞いていたんですけれども、若い人たちは全く分からないでしょうね。

原口　いちいち説明しなきゃいけないからドラマでは使わなかったんですよ。

坂元　私の先代の父親が、いろんな大学の先生と共同研究をやっていまして、当時、地元では「アマン」私の所では「天然米酢」という商品名でした。もうちょっといい名前を付けようとなったらしいんですね。「アマン」は熟成を重ねれば段々色が濃くなって黒くなります。先生の一人が、「黒酢ってのはどうだろうか」と。「鹿児島だから薩摩黒酢はどうか」って、その場で決まったらしいです。昭和五〇年の話です。「黒酢」は元々弊社の商品名だったのですが、

商標登録しなかったため、今では一般名詞となってしまいました。でも、当時は食べ物で「黒」ってのは評判が良くなかった。

原口　それは我が国だけの話。ヨーロッパでは高貴な「黒」です。

坂元　国際的には違ったんでしょうけどね。寿司酢に黒酢を使うとちょっと茶色くなりますから「シャリは白くなければ」と寿司屋さんに嫌われたりしました。おまけに、黒酢は作るのに随分手間がかかりますから、なかなか一般に流通するのに苦労をしたようです。

原口　苗代川の、薩摩焼の壺で作るんですもんね。

坂元　壺一本一本、全部手作業で作ってます。祖父の代は千本弱ですけど、今、五万二千本になっています。沈壽官さんのご先祖が焼かれた壺がまだ千本近く現役です。

原口　「アマン畑」自体が博物館って感じがしますよね。

坂元　そうですね。まさにアマンの生産工場ですのでね。

原口　僕らの団塊世代は、「アマン」という言葉に郷愁を感じまして、言葉のずっと先に、奄美・琉球・中国が浮かんできます。福山は、琉球交易の重要な中継地点でした。米処の庄内＝都城との中継地点でもありました。お米は、お金と同じように価値があるものなのに、これをなぜか酢にした。酢は、夏みかんとかの酢でも済んでるのに、なぜここまで米酢にこだわったのでしょうか、ご先祖は。

坂元　酢を作るのに必要なのは壺と原料の米と良質な地下水、それに麹です。都城から米を持ってきていました。福山港ってすごい貿易港だったみたいですね。

原口　錦江湾最大の貿易港と言ってもいいですね。

坂元　厚地さんとか貿易商が何人もいて、当時は九州の長者番付に福山の人間が何人も入っていたみたいです。

原口　福山の港に来た船は必ずここで水を汲むわけです。福山は水が良くて日当たりがいい。

坂元醸造　坂元昭宏さん

坂元　最初は火事とかで焼けた米とかクズ米が原料だったと聞きます。ただ、資料がないもんですからはっきりしません。

原口　あの「半田の酢」も酒粕から作った副製品です。日本全体を見渡してもですね、貴重なお米で作る酢ってのは贅沢の極みです。よほど強力な藩のバックアップがあったんじゃないでしょうか。

坂元　おっしゃる通りで、寒天の密貿易で薩摩藩が儲けていたと。これも資料が少ない中で、比較的最近ですけど、都城の方から資料が出てきたそうですね。薩摩藩の寒天工場の跡でした。

原口　昭和六一年にテレビで紹介しました。都城の寒天工場。寒か所（さんとこ）いですよ。雨が少なくて。

坂元　都城盆地の寒さを利用して寒天を作り密貿易をしていたと。

原口　指宿の豪商、濱崎太平次の工場がありました。二〇〇人ぐらい従業員がいたようです。幕府から見つからない所で寒天を作っていたんです。島津斉興の時代、斉彬の一代前。実はですね、資料的には確かめられませんけど「アマン」誕生のエピソー

坂元の くろず「壺畑」 情報館＆レストラン

〒899-4501
霧島市福山町福山 3075
TEL:0120-707-380
9:00-17:00（レストランは 10:00-16:00LO）

ドがあるんです。斉興公がずっと傍に置いたお由良さん。江戸の出身で記録には絶世の美女とあります。この江戸の町娘が薩摩に来て、きっと江戸で食べてた心太（ところてん）が恋しかったんじゃないでしょうか。心太と言えばテングサですよね。寒天ですよね。心太を作るにも酢が。

坂元　酢がいるんですよ。テングサを加水分解するのに福山の酢を使っていました。テングサはそのままでは寒天にできませんから、酸で分解して、それを原料に寒天を作っていたと聞きました。

原口　中国料理に寒天は欠かせません。おそらく輸出していた。密貿易というと人聞きが悪いけれど、薩摩藩がやっていたわけです。

坂元　もう薩摩の国策で、正当な貿易でしょうね。

原口　しかも福山には、厚地家という町人ですが郷士年寄の、福山の武士の最高の役職に就いた人がいます。厚地家だけが鹿児島城下にあった琉球王国の出先機関「琉球館」に出入りすることができた。琉球のものを商売していて、限りなく琉球・中国というマーケットの大事さを承知していたんじゃないでしょうか。

坂元　表向きは幕府に対して、地元の酢を賄っていると言いながら、実は、寒天を作るために元々の酢作りが始まったのではないかと。

原口　そういう伝承は正しいだろうと思います。

坂元　当時、福山だけで二万本ぐらいの壺があったと言われます。今でも薩摩焼の壺をそれだけ焼くのは大変だと思うんです。藩が後押ししないと、本当に無理でしょうね。

原口　あんな大物の壺はなかなか作れない。大変な苦労でしょうね。斉興の時代に、お由良・濱崎太平次・厚地家ということから天下絶品の米酢が生まれた。良い条件が揃ってたと思います。それに、販路もちゃんと持っていたでしょうね。一番は、永野金山。全国から集まってきた一万人もの人々が、体が疲れたときに欲しいのは酢だったんじゃないでしょうか。そうやって内外にマーケットを睨んでいた。琉球交易の商人が介在して中国にも輸出していた。それが薩摩の「アマン」、黒酢の誕生だったとまとめていいでしょうかね。

濵田　いろいろと絡み合わないと生まれないっていうことですね。

原口　あの国分煙草も南薩台地の菜種油も、江戸時代には米や黒酢と並ぶ最大の商品だったんですね。それが、明治になって様々なものが革新的にどんどん推移します。推移と言えば、濵田さんの所も、明治になって菜種油問屋から焼酎作りに変わった。最近は、清酒まで作っていらっしゃいませんか。

濵田　そうなんですよ。

原口　何か言われませんでしたか。「焼酎屋（しょちゅうや）がないごてよ」とか。

濵田　相当批判を受けました。（笑）鹿児島で約四〇年ぶりに金山蔵で薩摩の清酒を作ったんですね。元々焼酎のルーツは清酒なんです。清酒を蒸留すると米焼酎ですからね。その昔薩摩でも作っていたであろう清酒を、現在の鹿児島でも作ろうと蘇らせたわけです。

原口　おいしいお酒ですよね。

濵田　有難うございます。歴史的に見ると、日本酒つまり清酒がいつも中心的な存在ですから、そことの関係とか技術の継続だとか、あるいは技術の飛躍、蒸留器が入ってからの技術とか、こういった諸々を考えるためにも、本格的な清酒が薩摩にあるべきじゃないかと思っ

て「薩州正宗」を作ったわけです。

原口　ご存知でしょうけども、薩摩藩だった都城には、銘酒「稲荷山」があって、鹿屋でも、「桜川」という日本酒を作っていたんです。全国的には清酒文化でしたからね。でも、蒸留酒の文化については、これはもう薩摩は自慢していいと思うんです。カライモが伝わってきますよね。一六九八年元禄の頃。ときの家老は種子島久基。種子島で銃やサツマイモ作りが普及する頃の島主です。その家伝の中に「酎」を作ったという記録がありまして。

濵田　焼酎の「酎」ですか、先ほどの。

原口　蒸留酒か醸造酒かは、はっきりしません。でも「酎」は濃い酒のことで「焼」は熱による蒸留を表します。私は種子島の「酎」の文字は蒸留酒だと思っています。なぜかと言うと、安政六年（一八五九年）にアメリカ船が種子島の測量に来て、お酒が無くなって、バーボンに似たような酒はないか探していたと。そのとき、種子島の焼酎を出したんですよ。それが非常にうまい、ぜひ売ってくれと。お礼に六連発のピストルを貰ったそうです。ちなみに、翌年には、鉄砲鍛冶にそのピストルを作らせていた。五代友厚が大阪にいる頃に、ピストルがぽろっと懐から落ちるシーンをＮＨＫ朝ドラ「朝が来た」で出しました。薩摩の人は護身用にピストルを持ってました。

濵田　郡山八幡神社にも「焼酎」の落書きがありますよね。

原口「何ごてわがばっかいごっくんごっくん飲んみゃったどかい」と永禄二年に書いてる。一五五九年、ごっくんごっくんと覚える。

濵田　なるほど。（笑）

原口　あの頃は菱刈氏の勢力下で、その焼酎は相良氏を通じて八代港から入った輸入品。希少品だったでしょうね。それを宮大工に振る舞わないで郡山八幡の座主（坊主）がわがばっかい隠れて飲んでいた。面白くなかったでしょう。

濵田酒造　濵田雄一郎さん

だから、落書に残した。「なんとも迷惑なことかな」ってね。でも同じ頃、山川港に蒸留酒「オラーカ」があり、少し後には奄美に「年貢を焼酎で出せ」って記録もあります。ということは、高い蒸留技術が既にあった証拠なんです。

濵田　おそらく中国や東南アジアとのつながりでしょうね。

原口　そこでお聞きしたいのですが、国際的にも非常に評価の高い薩摩の発酵技術。歴史と伝統に支えられた薩摩の焼酎と黒酢。その国際戦略についてです。お二方の考えをぜひお聞かせください。

濵田　今、世界的に日本の和食ブームが続いて、その影響で日本の清酒も非常に高い評価がされています。本家本元の西洋にあるウイスキーの世界でも、日本で作られたジャパニーズウイスキーが高い評価を受けています。日本人のマメさというか、技術力や丁寧さが評価されてるんですね。そういう中で、なぜか知らんけれども焼酎があんまりパッとしない。これまでも本格焼酎を多少は輸出しておるんです。しかしよく調べると、飲んでおられるのは現地の在留邦人の方々で、限られた人口ですから頭打ちになっているんですね。

　ところが、清酒やウイスキーは現地の人達が飲むんで、ぐんぐん伸びている。本格焼酎はウイスキーに劣らない日本の蒸留酒なのに、なぜ評価されないのかなと。これは何とかせんといかん。こう思ったわけです。首を突っ込んでみますと、評価もへったくれもない。評価しようにも焼酎の事をまず知らない、存在すら知らない。こういうことが分かってきた。だったら焼酎を知って貰うことからって、県と組んで国の支援も頂きながら、アプローチを始めたんです。

　あれは「ワイン＆スピリッツエデュケーショントラストＷＥＳＴ」でしたか、お酒のプロを養成する国際的な教育機関があるんですね。本部はロンドンです。そこは、清酒もプログラムして教育しているんです。ですから、「同じ形で日本の誇る本格焼酎を教育プログラムに組み込んでくれよ」と、相談をし

話がハズンジョイモス

に行ったら、彼らも「本格焼酎という凄い酒のことは我々も密かに認識していた」と言うわけです。

原口　でも焼酎そのものは、知らなかったんじゃないですか。

濵田　そうなんです。パリに「クラマスター」という日本酒を評価する会があるんです。三ツ星レストランなどが絡んでいる、要するにプロの人達。彼らに、焼酎を飲ませたら、もうぶっ飛んで、「なんだこの蒸留酒は」「これはもう完全に酒としては完成されてるじゃないか」と。「だけど我々は知らなかった」と。我々とは、パリの食文化を表現するプロの資格を持つソムリエ・シェフ・レストランオーナーなどですが、その我々が「知らなかった」っちゅうわけです。

知ってもらえたら誰もが高い評価をする。「ここやっど」とね。物を売り込む前に、まず本格焼酎とは何ぞやを知ってもらう、伝えていく。ここから始める方が「急がば回れ」じゃないかと。

原口　あの疲れたときの「ダレヤメ」ですよね。味もいい。疲れを取ってくれる。癒しにもいい。木曽川の治水工事でぶっ倒れそうになるくらい働いている人達を勇気づけたであろう、薩摩焼の大徳利が発掘されました。五〇センチぐらいの大物で、中身はおそらく焼酎だったでしょうね。一七五四年、一番苦労している時代のまさにその現場から出たんです。焼酎の魅力・底力を感じますよね。

そして坂元さんお待たせしました。今度は酢の話題にしましょう。酢は、決して主役じゃないんですが、酢無しに世界中の料理は成り立ちませんよね。ヨーロッパの食事は大抵ビネガーを使っています。国際戦略的に見て、薩摩の黒酢の展望はいかがでしょう。

坂元　私どもの世界進出のきっかけは一九七八年、ハワイからの問い合わせです。アメリカ人の設計士の方で奥さんが日本人。彼がもう、何にでも砂糖をぶっかけて食べる人で、糖尿病がひどくて片方の目が既に失明してしまって、もう片方も危ないよと。そこで、誰かに「黒酢がいいよ」って聞いて、今度は何にでも黒酢をかけて食べてたら、片方の目は何とか助かって、「これは絶対体にいいから、ぜひハワイで販売させてほしい」との問い合わせだったそうです。

原口　今から四五年前の話ですね。

坂元　それからずうっと、ハワイで売って頂いてます。これがスタートでしょうね。その後、台湾・香港・シンガポールからも問い合わせがあります。これは現地の方々なんです。先ほど濵田さんがおっしゃったように、日系人は当然大事です。一番のベースとして考えています。ただ、やっぱり海外ですから、現地の方々に使って頂かないことには、ちょっとパイも広がらないわけです。ですから現地からの問い合わせは大事にしていまして、特に台湾やシンガポールの取引は、まだ大した量じゃないですが、定着してきています。

原口　シンガポールは食に関して高級志向ですよね。物価も高いようですが、黒酢にはライバルとかありますか。

坂元　そこまでライバルって言うのはありません。今のところ、現地の方々が「健康にいいよ」って勧めるような売り方です。

原口　健康にいいって、やっぱり黒酢ですよね。

坂元　最初、ハワイに出した頃は量がたくさん取れなかったんです。壺の数もそこまで多くなかったからですね。でも、ちょっとずつ増やして、日本国内だけでなく海外にも出荷する余裕が出てきました。十数年前から、アメリカでも展示会をしてアピールしています。

原口　これからでしょうけど、市場として台湾・香港・シンガポールは見込みあるんじゃないですか。酢を売り出す際は、やっぱり料理のレシピなどと絡めて広めて行くんでしょうね。

坂元　和食のイメージが強いですけど、意外とフレンチからの引きがあるんです。ニューヨークのシェフの方から「壺を見たい」ってメールが来て、直接に来られて、その場で黒酢を買って帰って、自分のフレンチレストランで使われた例などがそうです。

お酢もワインビネガーからパイナップルビネガーから、いろんな種類のお酢があります。新しい物をどんどん取り入れて、ブレンドとかを工夫して、新しいフレンチ料理、イタリアン料理を作っておられる。そういうシェフの皆さんが、結構、アメリカでもヨーロッパでも非常に多くいらっしゃいますね。

原口　常に革新ですね、食の世界というのは。

坂元　ニューヨークで黒酢を使っているレストランを何軒か見に行ったんですけど、本当にもう、お酢の種類が多かったし、「これとこれとこれをこうブレンドして」っていうお話で凄かったです。今は、情報がインターネットで、どこからでも情報が取れますからね。

原口　誰が、壺でお米で酢を作ろうなんて、贅沢なアイデアを考えたんでしょうかね。ところで、黒酢ってなぜ腐らないんですか。

坂元　上に「ふり麹」をするんです。水面に麹をふると麹菌が生育して、蓋のように水面を覆ってくれるんです。

原口　麹っていうのは、殺菌のクエン酸は出ないのでしょう。

坂元　出ないです。麹が雑菌の侵入を防ぐ役割を果たしています。

原口　なに麹と言うのですか。

坂元　私どもが使っているのは「黄麹」です。

原口　温かい所でも大丈夫ですか。

坂元　四〇度を超えると活動しにくくなるんです。人間が気持ちの良い温度帯が、やっぱり、麹も好きな様ですね。

原口　指宿や山川は暖かいでしょう。あの「山川漬け」の漬物の味って京都にはありません。「しば漬け」の京都じゃなくて、東南アジアの世界です。暑いところでも腐らせないで漬物を作れる技術が壺漬けにはある。そこが非常に納得できるんですね。「壺漬けとタイの漬物の味と、ほぼ一緒だよ」と、聞いたことがあります。

坂元　黒酢の発酵に関して言えば、最初に乳酸菌が出てくるんです。乳酸菌で守られてるっていうのが一番大きいです。液の中は乳酸菌ですね。外側は、さっき申しましたように麹が寒いでくれます。

原口　乳酸菌と言ったら、奄美に行ったら飲みますよ。

坂元　神酒（ミキ）ですね。

原口　徳之島にも沖永良部島にもあるでしょう。焼酎も黒酢も漬け物も、ミキもね。鹿児島はとにかく発酵食品が多い。このダイバーシティ（多様性）を宣伝していけば、「もう一遍来てみたい」魅力的な所だと世界の人達が満足してくれるでしょう。旅はどこ行っても楽しいですから、決め手は、土地の人々と歴史と文化と、それから焼酎と黒酢の魅力じゃないかと思います。鹿児島への愛着度をうんと高めて、アフターコロナのインバウンドの時代に、主役になって、お二方にどんどん鹿児島の産業を引っ張って頂きたい。

濵田　いやいや、こんな風に勉強させてもらってたいへん参考になりました。これから反映させて参ります。

坂元　畏れいります。お由良さんの話は私も初めて聞いてびっくりしました。（笑）

原口　お由良さん、江戸の町娘が関わっているわけでしょ。

坂元　おいしい米を使ってますから、まずいわけがない。

原口　貴重な米ですからね。おいしくなければ絶対ね、斉興公とあんな仲の良い、仲睦まじい関係は生まれません。

濵田　女性は強いですからね。

原口　私は芋焼酎を飲む会を立ち上げようと思っています。まずはパリ、次はロス。私の世代の女性の同級生がロスでも活躍していて、イベントコーディネーターになってくれます。食文化はこれからどんどん変わっていきます。そんな中でも、お二人の会社のように伝統を重視する方針を持つというのは大事じゃないでしょうかね。

今回、なぜ発酵文化をテーマに選んだかと言うと、日本全体が亜熱帯化している問題があるんです。屋久島の標高五百メートルまで、既に亜熱帯性の植生になってます。これから先、日本列島全体がそうなっちゃう恐れがある。亜熱帯化したときに、植生だけじゃなくて、社会構造がどう変わるかを総合的に検討しなければならない。

例えば東大の大気海洋研究所と医科学研究所が力を合わせて、さらに古仁屋高校と与論高校の生徒を巻き込んで、亜熱帯化したら日本はどうなるかと調査研究しているんです。今の高校生にとって三〇・五〇年先は目の前の深刻な問題です。一例を言えばマラリアの蚊がどんどん北に向かっていて、遠からず日本に上陸するでしょう。

濵田　それは怖いですね。

原口　そのときどうするんだと。コーヒーベルトも全部北に入ってます。当然、食文化も変わっていかざるを得ない。そういう五〇年・一〇〇年先を見据える研究を、今まさに、しなきゃいけない。だから発酵食品の研究がこれからの「主」になると思っています。

坂元　発酵って、アルファベットのカラオケと同じで、世界中に通じていますからね。

濵田　東京農大の小泉武夫教授を「薩摩金山私学校」にお呼びして、蒸留酒について語ってもらったことがあるんですよ。そのときにおっしゃったのが、「鹿児島は発酵王国である」と。

原口　あの発酵仮面がそう言ったんですね。（笑）

濵田　でも、プロの我々はもっと広い視点から「いや、鹿児島は発酵王国・発酵大国ですよ」と言いたいですね。発酵大国だという視点でやると産業政策や売り込み方も変わるかもしれません。

原口　一〇〇年後の日本はそうなります。先鞭を付けるんですよ。

坂元　できれば手を繋いで塊で行く方がいいと思うんです。いろんな業種を超えてですね。きっと面白いでしょうね。

原口　本当に面白いと思いますよ。今日は、お忙しい中有難うございました。すみませんね、ついつい熱くなって語りまして。

濵田　いえいえ、こちらこそ有難うございました。

坂元　楽しかったです。有難うございました。

坂元 昭宏（さかもと あきひろ）さん

昭和34年9月20日生　出身地　鹿児島県

【略歴】

昭和58年3月　一橋大学商学部卒業
昭和61年5月　ハートフォード大学経営大学院修士課程修了(米国コネチカット州)(MBA取得)

平成元年10月　坂元醸造株式会社 常務取締役就任
平成10年5月　坂元醸造株式会社 代表取締役副社長就任
平成15年5月　坂元醸造株式会社 代表取締役社長就任

濵田 雄一郎（はまだ ゆういちろう）さん

昭和28年9月17日生　出身地　鹿児島県

【略歴】

昭和50年8月　濵田酒造株式会社入社 代表取締役専務就任
昭和59年4月　濵田酒造株式会社 代表取締役東京支店長就任
昭和61年3月　濵田酒造株式会社 代表取締役副社長就任
平成6年7月　濵田酒造株式会社 代表取締役社長就任

【主な役職】

・日本酒造組合中央会　評議員
・鹿児島県酒造組合　会長
・いちき串木野商工会議所　子文
・鹿児島県中小企業団体中央会　常任理事
・鹿児島盛和塾　顧問

鹿児島県北部の文化活動

薩摩川内市合同文化祭

薩摩川内市文化協会

薩摩川内市文化協会を法人化して三年目を迎えました。

文化は人をつくる。
文化は地域をつくる。
文化は街をつくる。
そして文化は歴史をつくる。をスローガンに、市勢発展の一翼を担うべく頑張っています。

我々は、川内文化ホールから「SSプラザせんだい」に活動拠点を移し、コロナの感染対策を充分に施しながら、計画を変更することなく、様々なイベントを展開してきました。

今年度は、薩摩川内市の委託事業である「芸能祭」を始め、自主事業として、「薩摩川内市合同文化祭」と銘打ち、こころの文芸大会、音楽祭、花展とお茶席、総合作品展、芸能発表会を開催、また、こしきしま竜宮文化フェスタを共催し、いずれも大盛況でした。とりわけ六月の芸能祭では、韓国昌寧郡とリモートによる文化交流を行うなど、歴史に残る実りある一年となりました。

次年度は法人化して四年目。ギアを入れ直して頑張ります。

夢・快適・文化提案

総合建設コンサルタント

大福コンサルタント株式会社

本社：鹿児島市東郡元町１７番１５号
TEL：099-251-7075　FAX：099-256-8534

文化活動

〝育もう、気持ちひとつに、心の文化〟

さつま町文化協会

さつま町文化協会では、令和四年一一月六日に三年ぶりの文化活動の発表会を開催しました。今回は、出演者を含めた入場者を会員のみに限定し、芸能部門一六、展示部門七の団体が参加しました。

入場予定者には、事前に体調管理シートを配り、一週間の体温測定をお願いし、開演中二回の休憩を設け換気を行う等、徹底した感染症対策を行いました。初の試みでしたが、会員みんな喜びと感謝に満ちあふれ、「ありがとう」の声をたくさん聞きました。

これから少しずつコロナ禍以前に近づけるよう、力を合わせ努力したいと思います。観客の立場、演じる立場それぞれ身をもって感じ取り、みんなが成長していけたらと念じています。

何事も一人では出来ない、みんなの力を借りて、支え合って〝育もう、気持ちひとつに、心の文化〟一日も早く多くの方々に観て頂き笑顔が戻るように。

PRINTING
あなたのイメージを大切に刷る
(有)アート印刷
鹿児島市東坂元2丁目29-1　☎247-1605
E-mail art-p@d8.dion.ne.jp　☎247-5111
FAX247-2844

鹿児島県北部の

伝統文化親子体験フェスタ事業

出水市文化協会

この事業は、次代を担う子供が日本の民俗芸能や工芸伝統文化、生活文化を親子一緒に体験することによって、親子の触れ合いを通して豊かな心を持ち、併せて地域文化・地域人材の育成を図るために、文化庁の委託を受けて開催しました。

華道、茶道、俳句、能の体験を行いました。出水市文化協会は、華道四団体、茶道三団体、俳句一団体、能一団体が計画段階から参画し、当日も指導を行いました。事業は、令和三年度と四年度に、出水市文化祭の同日に開催しました。令和三年度は、生涯学習ボランティアフェスタでも行いましたので、三回の実施で、参加者は、華道が一〇三組二七一人、茶道が一〇六組一二二人、俳句が一八組四三人、能が一一組、三三人でした。

参加者の感想には、親子の触れ合いができたことや日本文化の素晴らしさに触れた喜びなどの意見があり、今後の出水市文化協会の活動の方向性が示されたものと思います。

PROMPT K

普遍の技術で未来をつくる

私たちは「時系列データを適切に扱う」という普遍的な技術を追求しています。

自ら時系列データベースを作り、自らアーキテクチャを完成させ
来る人やモノがデータで繋がる時代に応える準備を整えてきました。

人とコンピュータの対話がコマンドプロンプトから始まり、
Windowシステムへ進化することで、コンピュータの取り扱いが一般化したように、
人やモノから溢れ出る時系列データを「簡単に・適切に・迅速に」取り扱うことで
情報が資産に変わる未来を実現します。

時系列データを情報資産にする会社
プロンプト・K株式会社

https://www.promptk.jp/

鹿児島県北部の文化活動

活気ある香り豊かな文化協会を目指して

長島町文化協会　会長　入口　守

東は八代海、西は天草、南は本土と黒之瀬戸大橋でつながっている鹿児島県最北端の長島町は、豊かな自然と気候、風土に育まれ、穏やかな人柄と食に恵まれた土地です。長島町文化協会も「香り豊かな文化の町」として向上・発展してきました。しかし長島町は年々、人口減少が加速しており、当文化協会も、現在三三団体、会員数二〇九名で構成されています。いまだコロナ禍の影響が収まらない中、体温測定や健康チェック等、徹底した感染対策を行い、第一七回長島町総合文化祭を一一月五日と六日の二日間、三年ぶりに開催することができました。舞台発表では園児や小・中学生、加盟団体による演目が披露され、会場からは割れんばかりの盛大な拍手が送られました。また園児や児童生徒の作品、生け花、陶芸、写真、盆栽なども展示され、来場者は大変熱心に作品を鑑賞されておりました。まだまだコロナの感染終息が見通せない中、「人の心を豊かに」を念頭に、今後も生きがいと希望をもって、健全で活気ある文化協会を目指して活動に取り組んで参りたいと思います。

展示部門

生け花

陶芸・手芸

保育園作品

芸能部門

ケ・アロハ・プアラニ＆アロアロ

親子ダンス長島

ながしまひょっとこ会

鹿児島支店	鹿児島南支店	鹿児島県庁支店	大島支店	鹿屋支店	川内支店	加世田支店	出水支店
☎ 099-225-2211	☎ 099-253-5678	☎ 099-250-2345	☎ 0997-52-2531	☎ 0994-44-6622	☎ 0996-23-3260	☎ 0993-53-2500	☎ 0996-62-1660
霧島支店	種子島支店	志布志支店	大口支店	徳之島支店	ローンセンター鹿児島		
☎ 0995-48-6622	☎ 0997-22-0832	☎ 099-472-3671	☎ 0995-22-7111	☎ 0997-83-2551	0120-262-252		

九州ろうきん

プロジェクトメンバーからの提言

豊穣なる鹿児島の伝統文化～伝統芸能の消滅危機からの提言

池水 聖子

豊穣なる鹿児島の伝統芸能

令和四年三月、鹿児島県、いや日本を代表する民俗学者の下野敏見氏（九二歳）が亡くなりました。下野氏は種子島の漁業などをテーマにした研究で第一回柳田国男賞を受賞。県内各地の伝統芸能や儀式、生活の道具や民謡、昔話などを調査され、多くの著作を残されています。常日頃、下野氏は、「私たちの鹿児島県には、芸能一千、民謡一千、昔話一千。つまり鹿児島県は、口承で伝えるもの、身体で伝えるものの宝庫である」と語られていました。鹿児島という地を北のヤマト文化圏、南の琉球文化圏の接触点（または、裂け目）であるとみなし、さらに大陸からの影響と各地域独自の文化が融合した豊かな文化の古層の上に成り立つ場所だととらえています。豊穣なる伝統文化が継承されてきた地が、私たちの鹿児島県なのです。註(1)

しかし、現在、伝統芸能等の継承が非常に難しくなってきています。少子高齢化による担い手不足、地域コミュニティ・公民館活動や社会教育団体の弱体化によるこれまでのシステムの機能不全が考えられます。また、生活様式の変化は暮らしの中から生まれてきた踊りや唄、昔話をもうすでに必要としていません。さらに、感染症の脅威にさらされる新しい生活様式は、集団での活動、身体接触を敬遠しており、身体や口承で受け継がれてきた伝統芸能は、必然的に消滅する運命にあるのが現実です。

今回、鹿児島県文化協会が取り組む「かごしま文化未来創造プロジェクト」の伝統文化の継承・発展の分野は、「形にとらわれず本質を若い世代に継承し、新しい芸術文化とも融合した継承・発展を目指すこと、本質（スピリッツ）を継承し、持続可能な新しいカタチを求めることを考えていこう」というものです。私自身は、これまで調べてきた大隅半島の伝統芸能の継承の実態と最近の若い人たちの伝統芸能への取り組みから考えられることを提言としてまとめてみます。

大隅地域の伝統芸能継承・消滅危機の実態

筆者は、二〇二〇年マツダ財団の助成を受け、大隅地域の伝統芸能継承活動に、子どもや若者がどのように関わっているかを調査しました。大隅地域は、平成の大合併により三市一四町（一五市町）が四市五町（九市町）に統合、県内でも人口減少、高齢化率が比較的高い地域です。一九九〇～九一年に県教育委員会によって実施された『平成二、三年度鹿児島県の民俗芸能ー民俗芸能緊急調査報告書』（資料A）を基に、『文化財保護団体等活動状況調査』（資料B・県教委実施）と二〇一九年（平成三〇年）『かごしまの祭り・行事調査事業報告書』（資料C・県教育庁文化財課）を参考にしました。各調査の重複を整理し、二五年の間の伝統芸能の消滅・統廃合・復活

大隅地域 市・町	A 緊急調査（1990）	B 基礎調査（2017）	C 祭・行事（2018）	D A～C 統合数	H 活動有（2018）	減少率 H-D/H
鹿屋市	48	26	23	66	41	38%
垂水市	13	19	1	22	13	41%
曽於市	29	13	14	36	23	36%
志布志市	32	19	20	42	11	74%
大崎町	9	6	1	13	6	54%
東串良町	3	1		13	10	23%
錦江町	7	4	3	8	6	25%
南大隅町	13	3	1	16	6	63%
肝付町	30	3	8	34	18	47%
	184	94	71	250	134	54%

表１．大隅地域の伝統芸能数と活動数の状況

などを整理、その間に存在したと思われる芸能数がD欄の伝統芸能の統合数です。二〇一九年の調査時点での活動の有無は、報告書記載の芸能、実際の活動記録や広報等、各自治体担当課のヒアリングにより、調査を行った結果がH欄の芸能活動が実際に行われているという数字になります。

四半世紀の間に、どのような変化が起きているかが、この調査によって数字として現れています。合併前後の緊急調査では、大隅地域では、緊急調査(資料A)として調査された芸能の数が一八四、現地・文献調査から推測すると約二五〇の芸能が確認されます。二〇一九年調査時の活動が確認された芸能数が、一三四だとすると(対比五四%)、約半分になっているのが現状です。最も減少率の大きい志布志市は、実に七割以上の芸能活動が確認できません。特に志布志市へ吸収合併となった周辺部の町村集落(有明町、松山町)周縁地域の減少が著しいことが明らかになりました。

また、今回の調査からは、地域共同体で担われてきた祝い事や労働にまつわる歌などの芸能、「手拍子」や「木遣り」といった芸能の消滅が著しいことも明らかになりました。生活の変化に伴い暮らしの中の芸能が急速に失われているのがよくわかります。また、公民館活動の衰退や過疎化による小学校の統廃合は、公民館や学校単位で継承されてきた芸能が一瞬にして消滅していることも特徴として現れていました。これは、単純に伝統文化としての芸能のみが消滅しているのではなく、実は伝統芸能にまつわる暮らしの知恵と生活の技術の継承の消滅も発生しています。一例を挙げると、地域でわらじを作っていた古老が亡くなり、突然、芸能そのものの継承が難しくなるという事態も発生しています。これは、大隅地域のみならず、地域文化の継承という視点で考えると、他の各地域でも共通の課題であると思われます。このように、地域のコミュニティ衰退や少子高齢化が、加速度的に進むにつれ、伝統芸能継承の消滅の速さも予測させます。註(2)

若者を主体とした伝統芸能継承活動(さつま町中津川地区・金吾様踊りの例)

多くの伝統芸能が地域コミュニティの衰退とともに減少しているにも関わらず、新たな再生の動きもあることも紹介します。鹿児島県の中央部に位置するさつま町中津川地区では、伝統行事「金吾様踊り」の中で、五五年ぶりに「地割舞」を復活させました。最後に舞った世代が八〇代になり、このままでは、継承が難しいと二〇代～三〇代の地域の若者を集め、約七年の歳月をかけ、芸能復活に取り組みました。最初はいやいや参加していた若い人たちが、地区公民館館長や古老たちの真剣さと熱意に感化され、徐々に伝統芸能にのめり込んでいきます。祭りで「地割舞」を無事に披露するという大役を果たした後、この若い人たちは、少しずつ自分たちで、地域課題を見つけ、活動を模索し始めます。そして、青年組織「吾友会」を発足させました。今では、祭りが開催される大石神社の整備や公民館の補修、高齢世帯の農作業のサポートや子ども達に節分の行事を開催するなど様々な活動を仲間たちと続けています。ついには、吾友会のメンバーの一人は、地域の人たちのたまり場を、中津川地区に居酒屋を開業し、地域に新たな活力が生まれています。

伝統芸能の継承・復活に関わった彼らのこの体験は、世代を超えた多くの地域の人との関わりを実感し、必然的に自分たちの暮らす地域の

歴史や文化と向き合うことになりました。そして、若い世代として、地域での立ち位置を踏み定めていく過程を読み取ることができます。高校からは地域外で暮らしていた若い人たちが、伝統芸能でつながり、再び地域と関わる暮らしを選択していくという新たな動きです。註(3)

提言:伝統芸能継承とこれからの新しい暮らしのカタチ

・県内の伝統芸能の実態把握と行政との連携

大隅地域の伝統芸能の調査では、四半世紀で約半分になった現実は県内各地、同じような実態だと予想されます。県行政等の主導により再度、県内の伝統芸能継承の実態を明らかにすることが再スタートであると思われます。コロナ禍において多くの伝統芸能が三年に及ぶ休止を余儀なくされています。ようやく復活の兆しが見えてきているものの、各地の伝統芸能の継承の実態はさらに厳しい現実をつきつけられるものと思われます。国指定重要民俗文化財の伝統芸能も、二年の中断を経て、担い手不足と公民館活動の困難さを理由に、今後の活動未定という結論を出すという事例も出てきました。そのような中でこれからの世代に何を残していくかということは、単純に文化財としての芸能ではなく、地方自治行政と一緒になり、その継承活動の意味と地域づくりへの効果を明らかにしていくことが、求められます。そのためにも鹿児島県文化協会など県下で文化活動に取り組む団体がひとまとまりとなって、実態把握の必要性と継承活動の意義を訴えていくことが大切です。

・地域づくりとして、若い人たちへのアプローチ

これから地域の伝統文化をどのように継承していくかという課題については、地域の若い人たちの存在が欠かせないことも一つです。地域づくりの中心に青年を、若い世代を置くこと、それもまとまりとしての青年組織のようなものが地域の主体的な存在であることが大切です。これは、実に地域づくりの実践でもあります。伝統芸能を継承するためには、既存の公民館や学校システムに依拠していては、あっという間に消滅するリスクを抱えています。子ども達の継承活動の中に地域の若い世代が参画するような仕組みをつくることが大切です。これは、高齢化が進む地域コミュニティの指導層が、地域で生活する、または仕事をしている若い人たちにあらためて向き合うことを意味しています。腰を据え、時間や手間をかけて若い人たちの意見を取り入れたシステムを新たに構築していくことです。これは、難儀なことですが、新たなチャレンジであり、きっと楽しい作業になるはずです。

大隅地域でも比較的継承活動が保たれている東串良町は、小学校での取り組みに青年団が関わることにより、継承活動が維持されています。学校行事、子ども会活動が調整し、学校、地域活動、伝統芸能体継承活動が、両立できるようにしています。さらにその指導には、青年団が関わるという仕組みは、将来的な地域の指導者養成の役目も果たしています。

・新しい暮らし・鹿児島スタイルの発信

今回のプロジェクトは、「伝統文化の本質(スピリッツ)を理解」し、「持続可能な新しいカタチ」を模索するという取り組みです。これは、若い人たちの都市部からの移住、田舎暮らしの指向と呼応するものです。

これからの若い世代は、自然やコミュニティとの関わり、持続可能な暮らしのスタイルを希求していることが伺えます。

その時に鹿児島にはこんなに豊かな伝統文化の土壌があると誇れる状況にしておきたいものです。歴史的に見ても伝統芸能は、地域の人たちが、日々の暮らしの中に位置づけ、ゆるやかに変化しながら、継承されてきたものです。その活動の中には、地域コミュニティづくりのシステムが内包されています。子どもの学び、青年の育成、高齢者の生きがいづくり…等、生涯学習として分化されてきたものが、地域の暮らしの一部としてすべて含まれているのが伝統芸能継承活動です。

伝統芸能が、地域の誇りを体現するものであり、本来、疫病や災害から地域の人々をお守りくださいという祈りのカタチだとすれば、今の時代にこそ、求められるものではないでしょうか。継承活動は、その仕組みの中に、地域の防災、子育て、担い手育成、高齢者福祉といった要素がふんだんに盛り込まれていることを再認識していきたいです。豊かな伝統芸能を土壌にした地域づくり―新しい暮らしのカタチ、鹿児島スタイルを確立していくことを提言としたいです。

註（1）　下野敏見『鹿児島の民俗文化―その秘奥にせまる』丸山学芸図書、1990. pp.212-245。

註（2）　拙稿「青少年がつくる『ふるさとのまつり』伝統芸能継承活動と地域文化創造― 地域にくらす子ども・若者組織の「学びのプロセスに関する研究」2020、マツダ財団助成研究報告書（青少年健全育成関係Vol.32

註（3）　共著「地域文化継承から生きる学びをたぐりよせる」pp.220-236『鹿児島の子どもハンドブック―民間版子ども基本計画―』鹿児島の子どもハンドブック編集委員会、2021、南方新社

金吾様踊りの「地割舞」（さつま町中津川地区　2016）

吾友会の打ち合わせ風景（中津川地区公民館　2020）

正会員募集中

人生を、夢を、メルヘンの世界を
カンツォーネに乗せて語る
それは私たちを湖の中へ森へ、大海原へと誘ってくれる
カンツォーネの歌声で一番似合うのは
雄大な桜島、錦江湾に抱かれた
ここ鹿児島の地だと堅く信じている

Kagoshima カンツォーネ協会

カンツォーネに興味のある方！随意受付中です！
090-5286-1402（事務局・三島）
鹿児島カンツォーネ協会　にて検索!!

池水　聖子さん

鹿児島市出身。鹿児島大学建築学科卒、2016年鹿児島大学教育学部修士課程修了。（一財）鹿児島県青年会館艸舎の新館建設から関わり、2001年～2020年まで事務局勤務。鹿児島大学法文学部・鹿児島女子短期大学・鹿児島純心女子短期大学非常勤講師。一級建築士・図書館司書・保育士等資格

プレ大会総合開会式の出演者と生徒実行委員（2022 年 11 月 3 日）

全国高等学校総合文化祭は、「文化部のインターハイ」とも呼ばれ、国内外から約２万人の高校生が参加し、約 10 万人の観覧者が訪れる高校生による国内最大規模の芸術文化活動の祭典です。全国一巡目の最後を飾る記念すべき第 47 回大会が、いよいよ今年の夏、ここ鹿児島で開催されます。

今号では、「２０２３かごしま総文」で開催される総合開会式、パレード、22 部門の大会の概要を、プレ大会等の写真とともに紹介します。

鹿児島市

総合開会式

7月29日（土）【西原商会アリーナ】
総文祭の幕開けとなる開会式では、「紬ぐ、キバる、輝く」の大会基本方針のもとに、鹿児島らしさ、高校生らしさを精一杯表現します。

パレード

7月29日（土）
【かごしま文化ゾーン（県立博物館前～御楼門前）600m】
全国の高校生約２千人が、マーチングバンドによる演奏に合わせ、バトンやフラッグの演技を披露し、華やかに大会の幕開けを彩ります。

演劇部門

7月30日（日）～8月1日（火）【川商ホール】
都道府県大会やブロック大会を経て推薦された12校が、熱いステージを繰り広げます。各ブロック選出の生徒12人による講評も魅力です。

合唱部門

8月4日（金）【宝山ホール】
合唱を愛する高校生が鹿児島に集い、練習の成果を披露します。コンクールとは異なった雰囲気で、様々な合唱に触れることができます。

吹奏楽部門

7月31日（月）～8月1日（火）【宝山ホール】
吹奏楽を愛好する全国の高校生が鹿児島に集い、工夫を凝らしたパフォーマンスと個性豊かな演出、躍動的な演奏を披露します。

器楽・管弦楽部門

8月3日（木）～8月4日（金）【川商ホール】
各都道府県から推薦された高校生が、オーケストラや弦楽合奏・マンドリンやギターの合奏・ハンドベルやスティールパンなどの楽曲を披露します。

マーチングバンド・バトントワリング部門

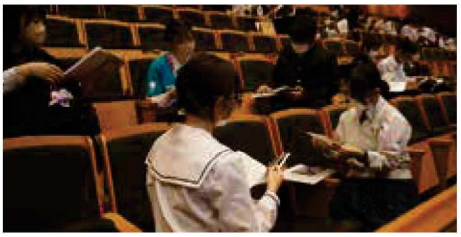
7月31日（月）【西原商会アリーナ】
全国の代表生徒が、音楽に動的要素を組み込んだ「マーチングバンド」・力強く華麗な演技で観客を魅了する「バトントワリング」の演技を繰り広げます。

美術・工芸部門

7月29日（土）～8月2日（水）
【鹿児島市立美術館、県歴史・美術センター黎明館】
全国の生徒による「絵画・版画・彫刻・デザイン・工芸・映像」などの作品約400点が展示されます。講演会や、交流会などの企画も催されます。

鹿児島市

写真部門



7月29日（土）～8月2日（水）
【かごしま県民交流センター、鹿児島県霧島アートの森】
全国の高校生による優秀作品約300点を展示します。また、著名な写真家による講演会や撮影会、生徒交流会を通して、写真の奥深さを学びます。

放送部門

8月3日（木）～8月4日（金）
【かごしま県民交流センター】
アナウンス・朗読・ビデオメッセージ・オーディオメッセージの4部門で、地域の話題や郷土の文化を紹介します。

弁論部門

8月1日（火）～8月3日（木）【サンエールかごしま】
全国から70余人の高校生が参加し、家族や学校、社会問題などについて、自身の体験や経験をもとに、考えや主張を7分間で発表します。

小倉百人一首かるた部門

8月2日（水）～8月4日（金）【西原商会アリーナ】
全国の選抜チームが「競技かるた」の技を競います。読手の声に 200 人を超える集団が札を払う姿は圧巻です。競技と読手の審査も実施します。

新聞部門

7月29日（土）～7月31日（月）【志學館大学】
全国の新聞部や新聞委員会の代表が、各校の新聞を展示します。また、歴史や文化・自然・産業などについて取材し、新聞にまとめます。

自然科学部門

7月29日（土）～7月31日（月）
【鹿児島大学（郡元キャンパス）、谷山サザンホール】
高校生が、物理・化学・生物・地学分野の研究成果を発表します。生徒交流会や研修、講演会などを企画しています。

特別支援学校部門

7月29日（土）～7月31日（月）【センテラス天文館】
県内の特別支援学校が一堂に会し、特色ある取り組みや学習の成果を発表します。ステージ発表や作品展示、物品販売があります。

茶道部門

7月31日（月）～8月1日（火）
【かごしま県民交流センター】
茶道を学ぶ高校生が流派を超えて交流します。大島紬を用いた小物製作や仙巌園の研修なども行います。

指宿市

囲碁部門

7月31日（月）～8月1日（火）
【指宿総合体育館】
男子個人戦・女子個人戦・男女混成3名1チームによる都道府県団体戦が行われます。プロ棋士による指導対局や決勝戦の大盤解説なども行います。

将棋部門

8月3日（木）～8月4日（金）
【指宿総合体育館、指宿白水館】
将棋界初の永世七冠誕生の地で、各都道府県の代表生徒が、高校日本一の栄冠を目指して対局します。プロ棋士による指導対局や決勝戦の大盤解説なども行います。

薩摩川内市

吟詠剣詩舞部門

7月31日（月）【SSプラザせんだい】
各都道府県から推薦された高校生による吟詠（漢詩や和歌を独特の節調で吟じること）と、吟詠に合わせた剣舞・詩舞（剣や扇を用いた舞）を発表します。

書道部門

7月30日（日）～8月3日（木）
【サンアリーナせんだい、SSプラザせんだい】
各都道府県から推薦された優秀な作品（漢字・仮名・漢字仮名交じりの書・篆刻・刻字など）約300点を展示します。

日置市

日本音楽部門

7月29日（土）～7月30日（日）
【日置市伊集院文化会館】
各都道府県から推薦された団体が、箏・十七絃・三絃・尺八など和楽器の演奏を披露するコンクール形式の大会です。

姶良市

文芸部門

7月30日（日）～8月3日（木）
【姶良市文化会館加音ホール】
全国から文芸部誌・散文・詩・短歌・俳句の5部門の代表が一堂に会します。交流会や文学研修も行います。

鹿屋市

軽音楽部門

8月3日（木）～8月4日（金）【鹿屋市文化会館】
各都道府県の代表バンドが、コピー・カヴァー曲やオリジナル曲を披露し合い、音楽を通した交流を図ります。

奄美市

郷土芸能部門

7月30日（日）～8月1日（火）【奄美文化センター】
全国の高校生が、各地に伝わる祭囃子・神楽・民謡・踊りなどの「伝承芸能」と、伝承曲・創作曲を含む「和太鼓」の2部門で競います。

本大会出場（予定）校

（令和５年１月現在）

開催部門			出場校など					
規定部門	1	演劇	鹿児島高校					
	2	合唱	鶴丸高校・武岡台高校・松陽高校・鹿児島玉龍高校・鹿児島女子高校・鹿屋女子高校・鹿児島純心女子高校・鹿児島高校・鳳凰高校（合同）					
	3	吹奏楽	指宿高校・加世田高校・川辺高校・薩南工業高校・吹上高校・伊集院高校・市来農芸高校・串木野高校・指宿商業高校・城西高校・鳳凰高校・神村学園高等部（合同）					
	4	器楽・管弦楽	鹿児島中央高校、甲南高校・松陽高校・鹿児島南高校・鹿児島玉龍高校・樟南高校・鹿児島純心女子高校・ラ・サール高校・鹿児島高校・鹿児島情報高校・れいめい高校・志學館高等部（合同）					
	5	日本音楽	鹿児島女子高校、明桜館高校・鹿児島工業高校・鹿児島純心女子高校（合同）					
	6	吟詠剣詩舞	鹿児島中央高校・松陽高校・加治木高校・志布志高校・鹿児島玉龍高校（合同）					
	7	郷土芸能	伝承芸能部門	沖永良部高校、鹿屋高校・尚志館高校（合同）				
			和太鼓部門	鹿屋農業高校				
	8	マーチングバンド・バトントワリング	鹿児島実業高校、龍桜高校					
	9	美術・工芸	鶴丸高校、松陽高校、福山高校、鹿屋高校、大島高校、奄美高校、鹿児島玉龍高校					
	10	書道	鶴丸高校、武岡台高校、松陽高校、加世田高校、伊集院高校、大島高校、鹿児島女子高校、鹿児島実業高校					
	11	写真	甲南高校、松陽高校、伊集院高校、徳之島高校、鹿児島女子高校					
	12	放送	アナウンス	甲南高校、鹿児島中央高校、鹿児島純心女子高校				
			朗読	甲南高校、加治木高校、鹿児島玉龍高校、鹿児島純心女子高校				
			ＡＭ（オーディオメッセージ）部門	国分中央高校、鹿児島純心女子高校				
			ＶＭ（ビデオメッセージ）部門	甲南高校、武岡台高校、種子島高校、国分中央高校				
	13	囲碁	令和５年５月の県予選大会で決定					
	14	将棋	令和５年５月の県予選大会で決定					
	15	弁論	沖永良部高校、鹿児島玉龍高校					
	16	小倉百人一首かるた	令和５年５月の県予選大会で決定					
	17	新聞	甲南高校、大島高校					
	18	文芸	文芸部誌	甲南高校	散文	鹿児島実業高校	詩	川内高校
			短歌	加治木高校	俳句	加治木高校		
	19	自然科学	物理	錦江湾高校、池田高校				
			化学	鶴丸高校、錦江湾高校、国分高校、池田高校				
			生物	錦江湾高校、加治木高校、国分高校				
			地学	錦江湾高校、国分高校、池田高校				
			ポスター	錦江湾高校、国分高校、池田高校				
協賛部門	20	特別支援学校	県内特別支援学校生徒					
	21	茶道	県内高校茶道部生徒					
	22	軽音楽	令和５年３月頃決定					

主催　文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、鹿児島市、鹿児島市教育委員会、日置市、日置市教育委員会、指宿市、指宿市教育委員会、薩摩川内市、薩摩川内市教育委員会、姶良市、姶良市教育委員会、湧水町、湧水町教育委員会、鹿屋市、鹿屋市教育委員会、奄美市、奄美市教育委員会、鹿児島県高等学校文化連盟

後援　全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、鹿児島県高等学校長協会、鹿児島県特別支援学校長会、鹿児島県私立中学高等学校協会

問合せ先　第 47 回全国高等学校総合文化祭鹿児島県実行委員会事務局
（鹿児島県教育庁高校教育課全国高等学校総合文化祭推進室内）
TEL 099-286-5575 ✉2023soubun-suishin@pref.kagoshima.lg.jp

詳しくは大会公式ホームページやＳＮＳを御覧ください。

検索　２０２３かごしま総文

賛助会員と寄付金の募集

鹿児島県文化協会では、文化振興並びに文化活動を支援していただく個人及び団体の賛助会員を募集しております。(年会費は、個人三千円・団体五千円)また、同じ趣旨で寄付金(随意)も受け付けております。

県の文化活動の発展のために、ぜひご支援を賜りますようお願いいたします。

申し込み方法

ホームページから書式をダウンロードし、ご記入の上郵送してください。電話での申し込みもできます。会費は下記口座のいずれかにお振り込みください。

ゆうちょ銀行　記号　１７８８０　番号　０６８７５０４１
（口座名）　鹿児島県文化協会　会長　原口 泉（はらぐち いずみ）

鹿児島銀行　県庁支店　普通　口座番号　９２１４５７
（口座名）　鹿児島県文化協会　会長　原口 泉（はらぐち いずみ）

特　典

機関紙「文化かごしま」にお名前を記載いたします。
機関紙「文化かごしま」を謹呈いたします。（年２回発行）
県文化協会の主催する行事へご招待いたします。

郷土の伝統行事や伝統文化の保存継承を

一條神社奉納太鼓踊り（薩摩川内市）

安納棒踊り（西之表市）

名音八月踊り（大和村）

写真は、本年度事業で、取り組まれた団体です。

喜界島民謡（喜界町）

漆バラ踊り（姶良市）

ホノホシ太鼓（瀬戸内町）

川尻琉球人踊り（霧島市）

令和４年度　伝統文化の保存・継承に係る助成事業

1　目的

県内の郷土芸能や伝統行事など伝統文化の担い手の育成・確保に取り組む活動に、助成を行うことで、貴重な文化遺産を保存・継承し、地域の文化振興に資することを目的としています。

2　業務の委託

公益財団法人鹿児島県文化振興財団の委託で鹿児島県文化協会が実施しています。

3　助成対象団体（次に掲げる全てに適合する団体が対象です。）

- 県内に住所または活動の拠点を有する団体
- 郷土芸能や伝統行事など伝統文化のうち消滅のおそれのある団体
- 郷土芸能や伝統行事など伝統文化の担い手の育成・確保に取り組む団体
- 国及び地方公共団体やこれに準ずる団体、営利団体、政治団体、宗教団体、並びに国及び県指定文化財は対象外です。

4　助成対象経費

- 講習会・成果発表に係る経費
- 衣装・道具の購入及び修理に係る経費
- その他担い手の育成・確保のための活動に要する経費

5　助成金の額

１団体当たり10万円が上限で、助成総額は予算の範囲内です。

6　助成金交付申請書提出先、問合せ

提出先：各市町村を経由し県文化協会へ　　問合せ：各市町村文化行政担当課、県文化協会

みらい総合法律事務所
弁護士　西尾　孝幸
〒102-0083
東京都千代田区麹町2-3　麹町プレイス2階
電話 03-5226-5755
メール vzb03537@nifty.ne.jp

-街に緑を　建築に夢を-
株式会社東条設計
〒892-0803　鹿児島市祇園之洲町 43 番地
TEL:099(248)2251　FAX:099(248)2261

【県民文化フェスタ報告】

二〇二二年一〇月一六日、ついにこの日がやって来ました。
フェスタに寄せられた、県知事からのメッセージを紹介します。

あいさつ

鹿児島県知事　塩田　康一

「世界自然遺産登録記念県民文化フェスタ イン あまみ ２０２２」が多数の皆様御参加のもと盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

鹿児島県文化協会におかれましては、かねてから、本県の文化芸術の振興に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。

本フェスタは、県内各地で活動されている文化芸術団体の皆様が日頃の活動の成果を発表し、相互に交流を図ることを目的に開催されており、今回は、奄美大島・徳之島の世界自然遺産登録を記念して、初めて大島地区において開催されることとなりました。

本フェスタにおける島唄や地域の伝統芸能の発表を通じて、奄美独特の文化の継承・発展の気運が高まることを期待し、また、出演・出展者の皆様には、日々の錬磨の成果を存分に発揮され、今後の糧としていただくことを願っております。

県としましては、文化の薫り高いふるさとかごしまの形成に向け、皆様と密接に連携して、地域文化の振興や文化活動の活性化等に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き、御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

終わりに、本フェスタの御成功と鹿児島県文化協会の御発展並びに皆様の益々の御健勝・御活躍を心より祈念申し上げます。

会場の「奄美文化センター」には、一二団体の展示がありました。
「アート工房ＫＯＺＵＥ」「丸口教室」
「えらぶフォト倶楽部」「ＴＥＡＭ　ＤＲＡＧＯＮ」
「奄美盆栽愛好会」「新南風俳句会」
「奄美書道協会」「名瀬美術協会」
「ニッコールクラブ奄美群島支部」「青嶺短歌会」
「池坊奄美支部」「奄美ワールド川柳　ＮＰＯ法人アマミーナ」
出展された皆様の素晴らしい作品が整然と並んでいます。

会場を訪れた多くの方々が、一つ一つの作品に向き合う様に顔を近づけ、じっくり見入ってらっしゃる姿が印象に残りました。

舞台部門の開演は一四時、開場は一三時半でした。けれど、一三時を過ぎる頃には、入口付近に二重三重の長蛇の列ができていました。そこで、急遽入場を一五分早める、事務局の粋な判断がありました。

受付場所には、なんと、大島紬を召した皆様が颯爽と並んで、にこやかな笑顔で入場される方々を迎えていらっしゃいました。

二階席まであるホールは、ほぼ満席。いよいよ開演となりました。実は、ほんの数日前、小型の台風の影響で「船が出ないかも知れない」という連絡が現地実行委員会からありました。出演を予定していた十団体のうち、徳之島・沖永良部島・加計呂麻島からの参加が四団体。「どうするか」「他の交通手段をなんとか確保できないか」「参加可能な六団体だけで実施するか」「フェスタ自体を中止にするか」等々、県文化協会の役員と連絡を取り、深夜まで協議が続いたそうです。

ですから、関係する多くの方々も、演ずる方々も、スタッフの皆さんも、みんなが、誰もが、フェスタ開演を心から待ちわびていました。そういう、会場の声を拾ってきましたので、以下ご紹介いたします。ステージで息が切れるほど熱演した方の声、観客の声、スタッフの声、報道関係者の声、舞台袖で見守る方の声・・・。さまざまな声が聞こえてきたらいいなと思います。

広報部長　林　竜一郎

【会場で拾った声】

・いい日和になりました。船の欠航があって、徳之島・沖永良部島の皆さんが来られるか心配しましたが、こうやって集まることができました。皆さん期待して下さい。

・老若男女のみんなに奄美群島の文化を見てほしいですよね。

須藤副知事
挨拶の後は六調子

・皆さん、それぞれ我が郷土を代表して参加するもんですから、早朝から一生懸命に舞台のリハーサルをしていましたよ。

展示部門
凄く充実してました

・奄美の素晴らしい文化をこうやって一堂に集めるのは初めてじゃないかと思います。だから、内外の皆さんの期待は高いです。

・関西の方から来ました。九州に来るのも初めてなんですが、こうやって伝承も難しくなっている離島の固有の文化を、このようにまとめて見ることができる機会はめったにございませんので、しっかりと楽しませていただいて目に焼き付けたいなあと思っています。

会場案内
お疲れ様です

・各地域の芸能をたくさん見ることができると思って、楽しみにしてきました。

・素晴らしい企画だと思います。知らない演目もいっぱいあるよね。

・展示を見てきたけれども、けっこう力作が多かった。素晴らしかった。

・棒踊りとか迫力があってすごいと思った。見栄えがいいですよね。

・同じ奄美と言っても、こんなにあっちこっちの島から来てやるのは見たことがないよ。

受付スタッフ
大島紬が素敵です

・本当に、島々によってこんなにも文化が違うと気付いた。見に来てよかった。

二階席まで満員御礼
いよいよ開演！

・この棒踊りは激しい打ち合いで、前列の方には竹が割れて飛び散ってくることがあります。十分にご注意ください。

・すっかり心が徳之島に飛んで行ってしまいました。

・小さいころに奄美に住んでいたことがあるのですけれど、伝統文化とかに触れたことは全くなかったです。あの西伊仙の棒踊りは迫力が凄かったですね。びっくりしました。

思わず我を忘れそうに？
情熱の挨拶 原口会長

・お年寄りの方が多いのかなと思っていたら、それぞれの保存会に若い方々がいらっしゃって頑張っている姿がいいなあと思いました。

ふくずみの湯
吹上温泉
日置市吹上町湯之浦２５１５　☎ 099-296-2005

さわやかな街づくりに奉仕する！
NANSATSU TOKYOSHA Co.,Ltd.
有限会社 南薩東京社

風月堂
創業大正八年

オープニングは
「六調太鼓」

・もう感無量です。五年前に奄美パークで踊っていて、それ以来の大舞台なので、みんなもうワクワクしていましたね。やり切った感じが凄かったです。
・じいちゃんばあちゃんが、子どもの頃から聴かせてくれていた指笛だったから、一生懸命に吹きました。

奄美と琉球の文化
「組踊」

・超満員で、嬉しいですね。それだけでもう、血が騒ぎます。
・組踊を、永良部から出て奄美大島でやるのは初めてですね。六一年ぶりの復活です。集落だけで組踊を継承している例はここしかないと沖縄県立芸術大学の先生からも言われています。今回は大トリということで緊張しています。

「稲すり踊り」で
豊作を祝います

・ステージから熱気と迫力と楽しさを感じました。
・なんとかやり切れました、良かった。舞台ができなかったのが三年でしたからね。久しぶりでした。

島唄の次代を担う子どもたち

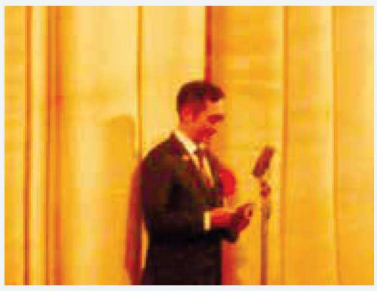
子どもたちの育ちを支えるみなさん

・もう、子ども達が良く頑張ってくれました。踊り方だけでなくて歴史とかも一緒に教えていますから、踊りの由来とかですね。意味とか歴史とか文化とかを教えて育てていますよ。

舞台袖からも
熱い視線が

・ハァハァハァ、もう限界です。とにかくやりきりました。
・練習もきついんですよ。体力勝負です。若い後継者が七・八人いて、総勢三〇人くらいでいつもやっています。今日はおいしいお酒を飲みます。
・若い人たちが多くていいね。八月踊りも集落によって違うし、それが見れてよかった。

男女が唄を
掛け合う「浜踊り」


安田奄美市長の挨拶
六調も踊りました

・司会がいいねえ。チヂンで、挨拶した人達のみんなに六調を躍らせていて楽しかった。あまみFMの渡陽子さん、最高！

仕切り役の森山事務局長
（白いマスク姿）

・二週間後は奄美市民文化祭がありますから、皆さん励みになったと思います。今から後片付けにかかります。
・皆様の拍手や声援を聞いて、本当に開催できてよかったと思いました。実は、台風らしきものが来て、開催できるかどうか深夜まで議論をしていたのです。来年は奄美の日本復帰七〇周年の節目です。奄美の文化を世界に羽ばたかせたいです。

感動のフィナーレ
境実行委員長の挨拶
「ありがっさまありょうた」

【会場アンケートより】

・世界自然遺産登録記念「県民フェスタｉｎあまみ」の開催おめでとうございます。各市町村の芸能が見られて大変良かった。奄美の文化の多様性を感じ、各々の芸能がとても素晴らしくて感動いたしました。奄美の文化は、他に誇れる素晴らしいものだとつくづく思いました。

・コロナ禍での開催で会場へ行くのが心配でしたが、島々の素晴らしい芸能を見ることができて不安も吹っ飛びました。

・故郷の若者たちの元気な舞姿に、故郷を思い出して涙があふれました。ありがとう。

・瀬戸内町「童子八月踊り」に出演した中学生の指笛の響き、感動ものでした。指笛も一つの芸術と認識いたしました。

・住用町西仲間の「竿踊り」に出演しました。大勢の観客の前で披露できて有難く思いました。練習も沢山いたしました。若者の後継者を育てることもできました。

・観客の姿勢もマナーも大変良かった。

・久しぶりの作品展示を見て心が洗われる思いでした。感動しました。特に「奄美の盆栽」が良かったです。

・開会の挨拶で、原口会長の「奄美の芸能・文化の豊かさは、人々が自然と共生してきた生き方の中で培われた」と、客観的・包括的に語られたことに感銘した。

・六調太鼓はこれまでの奄美六調太鼓の形から新しいスタイルの文化に変化していて、華やかさと迫力に感動しました。

・ＰＲ不足を感じた。もっとたくさんの人に観てほしかった。

・世界自然遺産と同じように伝統文化があることを誇りに思いました。

・それぞれの地域・島には歴史的変遷によって芸能が生まれ、住民が共同体としての楽しみを求め、癒されて共生してきていることを改めて感じた。

・入場料の徴収は、入場者を制限しているので、行政側は伝統文化に、もっと補助してほしいと思いました。

・伊仙町の「棒踊り」、迫力があり良かったです。竹竿を打ち合い、折れた竹が飛んでこないかと心配するほど勇壮な武術でした。

・奄美は文化の多様性、世界遺産、人の営み、芸能その他を含め、これはガラパゴスにはないものだと思う。

・立派なプログラム作成でした。その裏には、多くの企業が広告を出されていることに感銘しました。

・奄美にはこんなに多くの伝統芸能があることを誇りに思った。

・奄美大島の各島々の、これほど多くの郷土芸能を一堂に鑑賞する機会は滅多にないことで、奄美の文化に感動いたしました。県民文化フェスタ開催、有難うございました。

・各団体の「棒踊り」の違いは、それぞれの地域住民の生活文化の特性によるものだと思いました。

・奄美群島の各島々の伝統芸能を観ることができてとても楽しかった。

・このような催しを、毎年ではなくとも、二～三年に一度くらい見せられるような交流の場を作ってほしい。

・来賓の方々が、(挨拶の後に)六調を踊っているのを見てうれしかった。

・(天候不良による)諸鈍シバヤの突然の辞退、諸鈍シバヤがあれば、なお良かった。でも、素晴らしい郷土芸能を沢山鑑賞でき、感動いたしました。

・諸鈍シバヤを見たかった。

・期待していた諸鈍シバヤが拝見できなかったのは残念であった。

・和泊町の六一年ぶりの組踊に感動した。よほどの情熱の賜物だと思う。出会えたことが良かった。

・和泊町の畦布「高平万才」を初めて見ました。六一年ぶりの復活と聞いてびっくりし、素晴らしい芸能だと思いました。

・六調太鼓が最後にあれば、全員で踊り、もっと盛り上がったのではないか。

・展示部門でも奄美の盆栽や美術・書道・短歌など多彩な展示があり、趣味を生かした生き方に感銘しました。

・県文化協会長はじめ、県文化協会スタッフの応援ありがとうございました。

・島にはプログラムにはない文化財指定の芸能も他にあるので、多くの人々がそれぞれの地域の伝統文化を鑑賞することで、自分たちの地域の文化を伝承してゆく必要性を感じるのではないでしょうか。

賛助会員・加盟団体の紹介

令和４年度

賛助会員

《個人》

平島　義仁
島本　保子
最勝寺　良寛
中村　耕治(鹿響)
本村　錦香
森山　陽子
川村　美智子
水間　花紫露
松里　保廣
上山　貞茂
西村　協
川原　健司
山元　黎子
本村　ヒロ子
坂中　慈子
河野　正行
藤崎　剛
成尾　信春
田畑　浩一郎
富山　定子
森田　まち子
錦　京子
青野　のぞみ
藤田　はつほ
園田　豊
吉留　厚宏
川口　勝則
西園　靖彦

《団体》

鹿児島筑紫会
詩吟朗詠錦城会
ＪＡ☆ＴＳＵＭＡ

市町村文化協会

- 鹿児島市芸術文化協会
- 吉田地域文化協会
- 郡山地域文化協会
- 三島村文化協会
- 十島村文化協会
- いちき串木野市文化協会
- 東市来地域文化協会
- 伊集院地域文化協会
- 日吉地域文化協会
- 吹上地域文化協会
- 指宿市文化協会
- 南九州市文化協会
- 枕崎市文化協会
- 南さつま市加世田文化協会
- 南さつま市笠沙文化協会
- 南さつま市坊津文化協会
- 南さつま市金峰文化協会
- 薩摩川内市文化協会
- さつま町文化協会
- 阿久根市文化協会
- 出水市文化協会
- 長島町文化協会
- 伊佐市文化協会
- 霧島市文化協会
- 姶良市文化協会
- 湧水町文化協会
- 曽於市末吉文化協会
- 志布志市文化協会
- 大崎町文化協会
- 垂水市文化協会
- 鹿屋市文化協会
- 鹿屋市輝北町文化協会
- 鹿屋市吾平町文化協会
- 鹿屋市串良町文化協会
- 東串良町文化協会
- 肝付町文化協会
- 錦江町文化協会
- 南大隅町文化協会
- 西之表市文化協会
- 中種子町文化協会
- 南種子町文化協会
- 屋久島町文化協会
- 奄美市文化協会
- 大和村文化協会
- 宇検村文化協会
- 瀬戸内町文化協会
- 龍郷町文化協会
- 喜界町文化協会
- 徳之島町文化協会
- 天城町文化協会
- 伊仙町文化協会
- 和泊町文化協会
- 知名町文化協会
- 与論町文化協会

加盟文化団体

- 公益社団法人鹿児島交響楽団
- 鹿児島オペラ協会
- 鹿児島県吹奏楽連盟
- 鹿児島県合唱連盟
- 鹿児島県おかあさんコーラス連盟
- 鹿児島県箏曲会
- 生田流箏曲綵音乃会
- 鹿児島県尺八連盟
- 錦翔流大正琴
- 鹿児島邦楽夢絃の会
- ゴッタン成音会(なるねかい)
- 萌桜会
- The Song bird of Gospel
- Kagoshimaカンツォーネ協会
- 鹿児島県書道会
- 鹿児島県美術協会
- 日韓交流美術展実行委員会
- 岡田茂吉美術文化財団 鹿児島支部
- 鹿児島県詩人協会
- 鹿児島県歌人協会
- 鹿児島県俳人協会
- 天秤宮社(詩とエッセー)
- かごしま文芸研
- 鹿児島市民劇場
- 県子ども劇場協議会
- ブブ
- 鹿児島謡曲連合会
- 劇団「夢飛行プロジェクト」
- 鹿児島文化交流協議会
- 郷土芸能中之町鉦踊り保存会
- 鹿児島県連合華道会
- (一社)表千家同門会 鹿児島県支部
- (一社)茶道裏千家淡交会 鹿児島支部
- 前結び宗家きの和装学苑
- (一社)詩吟朗詠錦城会 鹿児島県本部
- 鹿児島県詩吟剣舞道連合会
- 田の神を守る会

編集後記

天達　美代子

機関紙一二五号をお読みいただきありがとうございます。

今回の鼎談「世界に誇るかごしまの食文化　其の参」は、初春の訪れを一望に見渡せる仙巌園にて行われました。まずは、ぢゃんぼ餅と緑茶からという和やかな雰囲気の中、当協会の原口泉会長が濵田酒造の濵田雄一郎社長と坂元醸造の坂元昭宏社長をお迎えして、「鹿児島の発酵文化を世界の人々に！」というテーマで話し合いが始まりました。お話をお聞きしながら、焼酎と黒酢が鹿児島の歴史とこんなにも深く関わっていることに驚きました。先人の努力が今の鹿児島の底力となっているのですね。「鼎談」というのは、こうやって色々な話題が次々に飛び出し絡み合うことなのだと初めて知りました。お三方の笑顔がとても素敵で、強く心に残りました。

最後になりましたが、県文化協会の活動を様々な面から支えて下さった皆様に心からのお礼を申し上げたいと存じます。これからもご支援をよろしくお願いいたします。

広報部

林　竜一郎（かごしま文芸研）
初音家政鵬翔（伝統芸能舞踊スタジオブブ主宰）
加治木　教允（郡山地域文化協会）
河野　洋子（錦江町文化協会）
福園　力（鹿屋市文化協会）
天達　美代子（鹿児島文化交流協議会）

前号記載の写真データに誤りがありました。
次の通りに訂正させて頂きます。

kagoshimaカンツォーネ協会

奄美市住用文化協会

関係の皆様に多大なるご迷惑をお掛けしました。
謹んでお詫びを申し上げます。

うまかつけもの
商標
UEZONO TSUKEMONO
上園食品株式会社
住所：鹿児島県霧島市隼人町眞孝字松山3344番地1

オリーブオイル専門店
SANTA
サンタ

〒892-0828
鹿児島市金生町 1-4
TEL 099-806-2096
https://www.will-santa.jp/
mail info@will-santa.com
営業時間／11:00-18:00
店休日／毎週火曜日・日曜日